



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

舎印

令和2年 1月 18日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

フリガナ タケベチョウデントウケイノウデンショウホゾンカイ

団体名 建部町伝統芸能伝承保存会

所在地

連絡先

フリガナ

ソウイチ ヒデヤス

代表者 職・氏名 会長 惣市 英康

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 ☐ イ 地域課題掘り起し ☐ ウ 地域計画づくり ☐ エ 地域課題解決型の地域組織づくり ☐ オ その他
事業名称	建部地域伝統芸能伝承事業
事業実施小学校区・地区	北区建部町 建部小学校区 竹枝小学校区 福渡小学校区
事業実施回数	新規 ・ ☒ 継続 6回目 / 【 27年度から】
課題	※地域の実情と解決をはかりたい課題、事業実施の必要性について記載してください。 本会は、建部地域の12団体で構成しているが、各団体に目を向けてみると、年々継承者（演舞者）が減っている状況にある。ここ数年で女人禁制を解除、小さい子供達への参加要請をするなど、後継人員の確保に苦慮している。 建部地域を人口統計で見ると、高齢者人口は約50%となっており、少子高齢化はさらに進み、増えることはないと思われます。こうした中において如何に伝統芸能を継承していくかが鍵となっている。町外への転出者はもちろんであるが、地域外の方々の参画も必要な時になっている。
事業の目的	※事業を実施する「目的」を記載してください。 本会は、建部地域の各地区で伝承される伝統芸能について、保存と伝承を推進するための活動を行っている。 建部地域の神楽は、県中央部特有の獅子神楽で、古いものでは江戸時代中期より継承されている神楽もある。棒遣いは、古武道竹内流の棒術の所作を取り入れられたとも言われている、御津、建部、久米郡地域のみで伝わる伝統芸能である。 建部地域は少子高齢化や、人口減少による集落機能が低下した中山間地域ではあるが、先人から受け継がれたこの素晴らしい伝統芸能を、後世に伝えていかなければならない。子どもたちへの指導や地域内外に向けた啓蒙活動などを行い、世代を超えた活動の重要性を示すと共に、近年希薄に成りがちな地域のコミュニケーションを活性化し、安全で心豊かな地域社会を維持継承することを目的とする。

事業の内容	※具体的に実施する活動内容を箇条書きで記載してください。 【伝承活動】 *構成団体ごとで、子どもたちへの指導、指導者の育成や地域交流を行う。 *転出者や地域外の方（特に経験者）へ参画を呼びかける。 *転入者や移住者に見学会や体験会等に参加を呼びかけ、協力をお願いする。 *一部保存会では、地域外の参加者も活動に参加してくれているので、さらにその輪を広げ、参加者を求める活動を継続して行う。 【広報活動】 *地域内外で開催されるイベント等へ積極的に出演しPRする。 秋祭りの行事に加え、もう少し広範囲に展開する。吉備津彦神社新年祭、はっばね桜まつり、建部町納涼花火大会、建部町文化祭、御津獅子舞フェスタ、その他イベントなどに積極的に参加する。 *ソーシャルメディアを活用した広報戦略によりPRする。岡山市ホームページや「たけべ新聞」にて、全国へ向けて情報発信していく。 *岡山県、岡山市等の情報誌、観光案内のチラシやPR動画等に写真の掲示や映像を流すなどして戴き、伝統並びに伝承活動を発信する。
期待される成果・目標	※事業実施することで、変化すること、期待している成果、事業実施後にどこまで到達しておきたいか「目標」を記入してください。 【伝承活動】 子どもたちが参加するためには、「楽しい」とか「興味」とかが必要となるので発表の場づくりも必要とされる。達成感を味わうことで、子どもたちが大人になっても参加し続けることができれば、継続した伝承活動が図れる。 現在の若い指導者も少子化により全員参加で指導を受けてきた者が多く、危機感を持って指導している。子供達にも将来、地域内に定住してもらいたいが、地域外に出たとしても、故郷の一番の思い出となり、機会があればいつでも参加したいと思える様な郷土愛が育つ事が期待できる。 この活動には、田舎ならではの3世代参加者も多く、地域住民の活性化と、災害等の有事の際などにおける共助、支援体制を構築するために必要とする地域のコミュニケーションを強くし、住み良い地域を創造するための最たる活動の1つであると認識している。地域内の交流、協力、共栄等の失われつつある古き良き日本の姿を取り戻すために、地域のリーダー的人材の育成にも期待できる。さらには、心安らぐ自然と文化に溢れたこの建部の地に、定住したいと思ってくれる方々が現れ、人口減少に歯止めがかかる事を期待する。 【広報活動】 現在、県指定重要無形民俗文化財が33件あり、このうち2件が建部地域にある。昭和32年指定の志呂神社御供と平成6年指定の建部祭りである。 どちらも神楽と棒遣いが奉納されており、「たけべ新聞」にて情報発信しているが、来訪者（観光客）は多くはない。さらに広報活動することで、来訪者増はもちろんのこと、建部地域への関心度アップが図れ、ひいては都市農村交流や移住・定住のきっかけとなれば、素晴らしい活動として継続できる。 岡山市の伝統芸能の中に、建部地域の神楽・棒遣いがアップされる事で、各種イベント等で公開されるようになり、地域の活性化が期待できる。日本の伝統芸能の1つとしてクローズアップされれば、更なる伝承保存活動の礎になる。

企画などの工夫	※通常、日常的に実施している事業をそのまま提案された場合は、対象とならない可能性があります。区づくり推進事業の申請にあたって、何をどう変えたのか、どこに活動の目的や対象をしばったのかなど、企画にあたっての工夫をお書きください。 この区づくり事業を推進する中で個々の保存会にある課題を共有し、考えるような「連絡会議」を立ち上げた。いろいろな出演の機会があっても1つの保存会では人数が揃わないとかいろいろ難しいことがあるが、2つ、3つの保存会が協力して当たればできることにもなるので、皆でこの区づくりの場を通して課題解決に当たっていく。 近隣の御津地域の保存活動と協調して各種イベント、研修会や講演会の開催や参加を画策し、活動内容等を発信する範囲を広めていく。 ソーシャルメディアを活用した広報活動によって、全国どこでも誰もが閲覧できるし、閲覧者との情報共有を目指す。
協働する団体等	※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。 建部町3学区連合会、建部町公民館、建部町観光公社、建部町観光協会、たけべ八幡温泉、めだかの学校及び岡山市との連携を大切にし、建部の伝統文化を効果的に発信できるよう情報交換を密にしている。
事業の情報公開	※区づくり推進事業は、広く区民への情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。 本事業においては、伝承活動と併せて広報活動を行うこととしている。発足している「たけべ新聞」を通して「建部地域の神楽・棒遣い」のページを設けて発信する。また、市や県など行政のホームページとも相互リンクを推進する。 岡山県、岡山市等の情報誌、また、区づくり事業を介して、我々の活動を広く発信できる機会が増えた。また関係の講演会等に参加して、活動のノウハウを得ると共に、活動の情報交換もできる様になっている。
学区地区への広がり	※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。 御津地域で「獅子舞継承活動事業」が実施されているが、歴史的にも古くから伝承されている建部地域も同様な活動と、かつ建部地域ならではの先進的な活動を行うことで、お互いの地域での相乗効果が図れる。また、さらに近隣地域に活動を広げられれば、もっと有意義な活動となるだろう。 建部が御津へ、御津が建部のイベント等へ出演するような場ができ始めた。さらには岡山市以外の関係団体との交流を目指す。

前年度からの見直し拡充点	※継続事業で申請される場合は、前年度の事業の成果を踏まえ、今年度の事業の改善・拡充点を記載してください。また審査会での助言・コメント等について改善・拡充したことを記載してください。 「連絡会議」を中心にして情報交換、活動を引き続き行う。 それぞれの保存会で購入している消耗品や修繕、新しい衣装づくりなどの揃え方などを出し合い、さらに省力化やコスト削減などができるようにする。 伝統芸能を伝承する活動の目的は伝承ではあるが、この活動の意義が何であるかを、「連絡会議」において議論する機会ができた。さらに議論を進めることで、関係者が共有した認識で活動することができれば、更なる効果を得る事ができる。 色々な出演要請に応えたり、PRできるような方向を目指す。また各種講演会、討論会等に積極的に参加し、情報交換を図り、有効な活動の礎にしたい。
次年度以降の予定	※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。 ①次年度以後の活動計画 * 地域内外の新たなイベント等の調査と出演。 * 各団体の映像による記録の検討。 ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定 ☐ () 年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 ②資金確保の具体的な方策 * 近年はイベント出演等に対する謝礼は少額のため、参加経費が回収できない。しかしながら、可能な限り参加することで、今後の足掛かりとなる事業を模索する。
その他PRしたい点	古来より引き継がれてきた伝統文化、そして未来へ引き継いでいく伝統文化は、地域地域によって異なっており、その継承方法も千差万別である。建部地域だけでなく、御津地域や岡山市の他地域で伝承されている伝統芸能とのネットワークを広げ、いつの日か「岡山市伝統芸能大会」が企画されることを願うし、積極的に呼びかけて行きたいと思う。 また、本会は地域内の同じ目的、同じ問題を抱えた団体で構成されているが故に、秘めた熱い思いを持って率先して活動に参加してくれている。近年の働く世代が都市部に流出してはいるが、いずれ戻って来たいと思ってもらえる様な、魅力有る思い出と心豊かなコミュニケーションを残せるように活動を続けたい。 都市部に比べ、物資では勝ることはまず不可能であるので、心豊かなコミュニケーションと普段の生活の中から自助、共助の精神を持って生活するための礎になる、3世代の交流のできる本会を最たる活動と位置付け、活動を続けたいと考えます。 この活動には、田舎ならではの3世代参加者も多く、地域住民の活性化と、地域のコミュニケーションを強くし、住み良い地域を創造するための最たる活動の1つであると認識している。 今後生じるであろうと予測されている災害等の有事の際、最も必要とされているのが、地域のコミュニケーションです。災害に弱い都市部より、豊かな自然と人情の溢れる地域の維持してゆく活動の1つで有ると自負しています。 都市部に比べ物資、利便性では劣る事は否定できませんが、岡山、津山からは約1時間、空港からは約30分のアクセスの良さと、温泉もあり癒しの生活ができる環境のあるこの建部の地に、定住したいと思ってくれる方々が現れ、人口減少に歯止めがかかる事を期待しています。

事業スケジュール （企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。）

月日	活動内容
4月	はっぼね祭 役員会
5月	総会 連絡会議
6月	
7月	練習準備会議
8月	建部町文化祭事前打合せ会 練習・指導開始
9月	練習 各団体毎で相互視察 御津獅子舞フェスタ事前打合せ会
10月	建部町文化祭事前打合せ会 秋祭り
11月	建部町文化祭への出演 御津獅子舞フェスタへの参加 地区別反省会
12月	建部町文化祭反省会 役員会
1月	吉備津彦神社新年祭での出演 臨時総会 連絡会議
2月	会計監査 めだかの学校の環境学習で棒遣いの演武披露
3月	はっぼね祭り実行委員会

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算見込み	予 算	備 考
岡山市補助金	440,000	440,000	
実施団体負担金	438,000	439,200	@36,600×12団体
参加負担金			
協賛金			
寄附、他収入	2,000	800	
計	880,000	880,000	

◆ 支 出

単位:円

項 目	前年度決算見込み	予 算	備 考
消耗品費	468,000	468,000	*草鞋 @1,200×200人=240,000円 *足袋 @1,200×80人=96,000円 *棒代 @4,000円×8本=32,000円 *リボン、毛糸、御幣他 84,000円 *事務用品(封筒、用紙、インク等) 16,000円
食糧費	44,000	44,000	会議、練習時飲み物 練習時 42,000円 会議時 2,000円
印刷製本費	4,000	4,000	コピー代
燃料費	1,000	1,000	ガソリン代他
光熱水費	0	0	
通信運搬費	2,000	3,000	会議・連絡送料
広告料	0		
手数料	161,000	161,000	*クリーニング代 @1,000×55人=55,000円 " @1,400×55人=77,000円 " (小物)@580円×50人=29,000円
使用料	10,000	10,000	練習会場使用料 車使用料(郷土芸能大会)

原材料費	121,000	120,000	障子紙、布代、毛糸代等衣装仕立て用
委託料	0	0	
報償費	66,000	66,000	指導者謝金 @1,000×11回×6人
保険料	3,000	3,000	傷害保険 @40×1日×75人
旅費	0	0	
計	880,000	880,000	

◆概算交付の可否(いずれかに○をしてください。)(補助金額が20万円を越える場合のみ)

補助金の概算払いを	希望する ・ ☒ 希望しない
-----------	--

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください。

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。